

環境調和材料研究会開催報告

日時：2019年1月24日（木）15:00～17:15

場所：名古屋工業大学 16号館 1621講義室

主催：名古屋工業大学 先進セラミックス研究センター

共催：名古屋工業大学研究協力会

概要：

セラミックスを主成分とする様々な機能性材料の中で、表面特性を積極的に活用する固体触媒はエネルギー・化学原料製造や環境浄化に欠かすことのできない重要な材料として活発に研究されています。特に、原子・分子レベルでナノ構造を制御することにより、飛躍的な性能向上や新奇機能を発現することが知られています。今回は、金属や配位子を選択することで界面反応場の制御が可能な金属有機構造体（MOF）や元素間融合を基軸としたナノ粒子の合成と触媒反応への展開について活発にご研究されている京都大学 小林浩和先生と京都大学 ESICB 佐藤勝俊先生をお招きして、エネルギー・環境問題に貢献できる触媒材料の研究動向と今後の展望について講演をして頂きました。本研究会は、名古屋工業大学が産業技術総合研究所との連携・協力協定に基づく活動として実施中の共同調査研究（テーマ名「パウダーテクノロジーによる天然ガスの基幹化学製品への直接変換プロセスの進展」）の一環として開催しました。

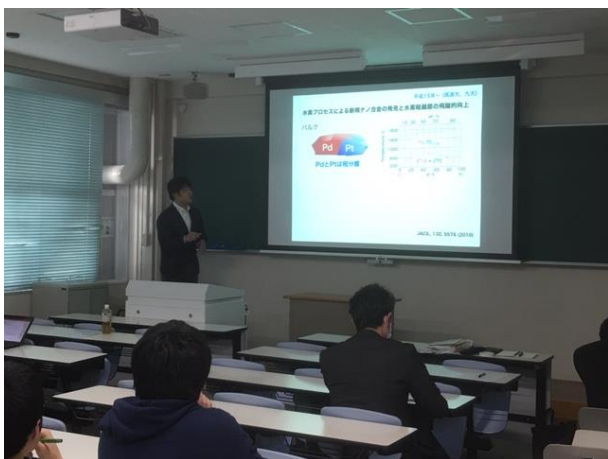
プログラム：

「金属ナノ粒子と多孔性金属錯体の界面反応場の制御と触媒への展開」

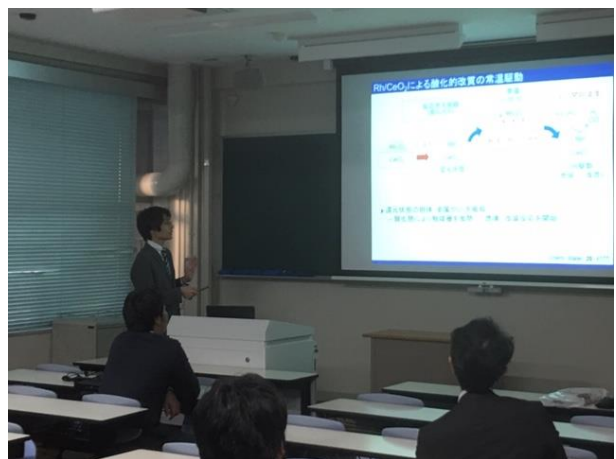
京都大学 大学院 理学研究科 化学専攻 准教授 小林 浩和氏

「触媒の自己発熱を利用した水素製造反応のクールドスタートプロセス」

京都大学 触媒・電池元素戦略研究拠点 特定講師 佐藤 勝俊氏



（小林先生による講演風景）



（佐藤先生による講演風景）